

「地域をふたつの目でみれば…」

児童館職員で主任児童委員の座談会

主任児童委員創設から4年。広い視野で地域児童をみる役割はまさに児童館職員と同じ。この両者がうまく連携するには、ひとりで兼ねてしまうのが手っ取り早い方法のようですが、果たしてそのメリットや効果は？京都市でこの活躍の5名の方々による座談会です。

- 飯吉昌子 (福西児童館・児童厚生員)
 - 齊藤真理子 (終野児童館・児童厚生員)
 - 信ヶ原和子 (だん王児童館・館長)
 - 永尾智子 (京都市修学院児童館・児童厚生員)
 - 山本正子 (京都市横大路児童館・児童厚生員)
- 〈五十音順・敬称略〉

現在の活動状況から うかがえますか？

山：まだ主任児童委員(以下「主」としては足踏み状態ですが、ときどき学校の校長先生から相談があつて、児童館での子どもの様子をお話しします。
飯：児童館の活動の中で見えてくる子どもの問題(不登校など)や情報を学校へ提供できるから、そんなことからですかね。



聞き手・編集

(社)全国児童館連合会
業務部・研修部係長

依田 秀任

齊：「主」の研修会で児童館のことについて話したら、皆さんが児童館に足を運んでくださって連携が密になりました。

信：「主」になって地域に出る足がかりができました。それまでは子どもから家庭が見えてもどうしていいか手がかかりがなかった。児童館職員としてか「主」としてか子どもの友達の母親としてかよく分かりませんが、地域の母親から相談を受けることがあります。3年位関わっているケースもあります。他の「主」とまず地域の子の名前を一から覚えるところから始まるのですから、児童館職員が兼ねる意味は大きいと思います。

永：民生委員会はどうしても老人のことが主で、児童館のことについて事例報告をさせてもらったりしています。児童館職員と「主」の仕事は重複する部分がいっぱいあります。

主任児童委員になって、何か地域 児童をみる視点が変わりましたか？

飯：児童館が利用する子だけに対応しているだけではないのか疑問でしたが、「主」になって(それだけではいけないことを)確信した。今まで児童館でやってきたことも大事にしたいけど、厚生員みんなが「主」とい

う意識を持ってもらえたらすばらしいと思いますね。
山：「主」という言葉自体が知られていないんです。だから、自治会の新聞に書かせてもらったんですよ。
飯：福祉機関でも「主」を知らない方がいらっしやるんですよ。まだ。(笑)全体に浸透してないのが現状なんです。ショックですけど。
永：研修での日線が変わってきました。今までは「担当している学童クラブにすぐ役立つもの」をセレクトしていたけど、「主」をうけてから「地域の子どもに返していけるもの」と思うようになった。

児童館職員が主任児童委員を兼ねる メリットは何でしょうか？

信：関係機関に連絡を取るときは、「主」って言ったほうがちゃんと対応してもらえます。児童館の一職員では聞かせてもらえないこととかね。

飯：「主」として得られる地域の情報が児童館に入ってくるのはメリットでしょうね。

齊：私は反対に地域では「〇〇ちゃんのお母さん」ということで他のお母さん方は相談しにくいんじゃないかなと思うこともあります。

永：子どものいろんな問題に入っていけないのは、その向こうにいる親との関係がないからだと思うん

ですね。大人との関係が大事だなと思う。

信：例えば気になる子がいたら、その子をどう見ることが共有しなくちゃいけないと思うの。叱り方ひとつもそう。

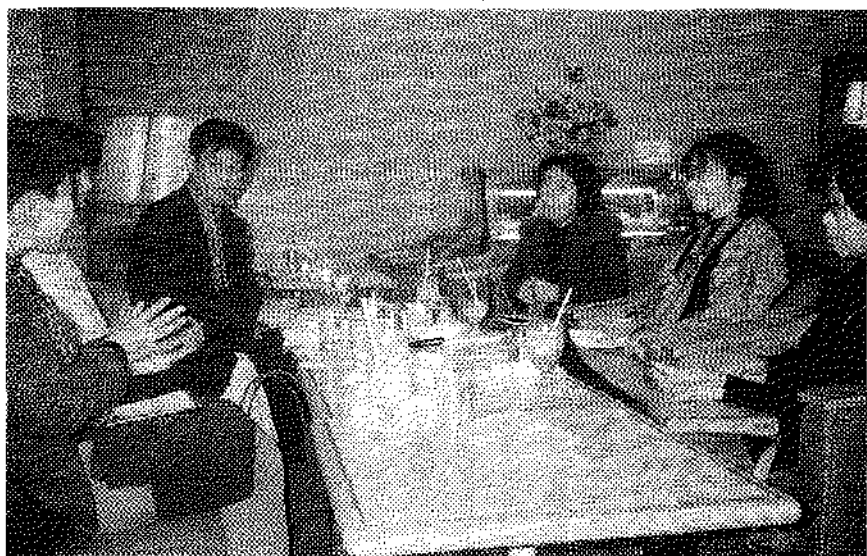
主任児童委員の立場からみえる児童館の課題はありますか？

飯：「主」の仲間から「児童館だよりを回覧板で回したら」とか「町内の掲示板使ったら」とか、案外気が付かないことを教えてもらえます。児童館は決まった子がいくところというイメージがあることが他の委員さんとの会話からわかりますね。もともととアピールしていくべきだと思います。児童館にいてもお客さん扱いで、何をしてもいいかわからない。「あんまりすると迷惑やろうね」なんて声も。他機関で保育だけを任されている方もいますが、「何でここで子守りしてるんやろ？」と思う時があるそうです。だから、児童館もどういう形で来ていただくのか考えていく必要がありますね。

齊：私の区では教員や保母の経験のある方が多くて、児童館で子どもと一緒に工作したりするのもいいという方もありますよ。

児童館と主任児童委員がもっと密接に結びつくには何が必要でしょうか？

信：「主」と言ってもその意識レベルにはらつきはあると思います。児童館からとどんアプローチしな



いと「主」もどう動いたらいいのかわからないんです。子どもだけじゃなくて、地域の誰もが行きやすくていろんな話ができる雰囲気をつくる必要がありますね。

山：幼児クラブとか母親クラブの様子を見に来てもらうのもいいねえ。みんな「児童館は朝から何してるんやろう」と思っていると思うんです。

齊：一度行かれた方は「児童館って、すごいことしているのね」って言ってくださるよ。やっぱり、来てもらって知ってもらおうということが大事じゃないかな。学童クラブにも問題を持った家庭の子もいるわけですから、頻繁に来てもらっている間に相談にの

っていただいたりできるんじゃないかなと思います。

今後の抱負を…。

永：たった一人の人と出会ったことで、その子が変わることもあると思う。些細なことでも私でできることはしていきたい。

信：児童館ではまず子どもの気持ちを受け止める人でありたいし、「主」としてはもっとうまく地域の諸団体との横のつながりを持たせたい。

齊：「主」であれ児童館職員であれ近所のおばちゃんであれ、子どもの話をじっくり聞いてやりたい。

山：何でも話してもらえる存在でありたい。私も実はおばあちゃんなんです、書物で子育てする今のお母さんにアドバイスできればと思います。

飯：目指すのは「近所のうるさいおばちゃん」的存在。学童クラブの保護者の方には「一人預けたら子どもが五十人に増えたと思うてくださいね」と言うんです。そういう意識を持ってくださる方が増えることを願っています。

意識のある主任児童委員には大いにその力を借り、児童館の絶大な協力者になってもらう。仮にそうでない主任児童委員があるならば、児童館から積極的に働きかけ、その気を盛り上げて機能させる。児童館と主任児童委員は、地域の子どもを見つめる仲間であり、共に悩み協働する相互関係は、きつと地域を豊かに潤す原動力となることでしょう。

「協力ありがとうございます」。